

【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：鹿児島指導区 氏名：山之内美穂

1 発表テーマ

鹿児島地域における椿資源の利活用促進に向けた取組

2 テーマの趣旨・目的 ＜取組課題選定の背景含む＞

椿油は、令和5年次の本県の生産量が全国第3位、このうち鹿児島地域管内の椿実の生産量が県下の9割を占めており、地域資源を活用した特産品として高いポテンシャルを有している。

一方で、椿実生産現場においては、生産者の高齢化等により管理されなくなった椿林も増加してきており、安定した椿実の収穫量を確保するためには、効果的な椿林の管理と荒廃した椿林の整備及び椿油の生産技術の向上や関連商品の販売促進の取組が必要となっている。

このため、令和5年度に策定した「かごしま椿資源利活用促進方針」に基づき、かごしまの椿資源の利活用促進に関する施策を総合的に推進するため、椿関係者等で構成された協議会の設立や関係者連携による効果的な椿林の管理、鹿児島の椿油の認知度向上に向けた取組について報告する。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 成果（目標数値等を定めた場合は、その成果を含む）

○「かごしま椿資源利活用促進協議会」の設立に向けた調整及び運営支援

- ・ 椿資源の利活用促進に向けた推進体制の整備を図るため、椿実生産者や製油業者、椿資源利活用関連の販売業者等で構成される「かごしま椿資源利活用促進協議会」の設立に向けた関係者の連絡調整及び設立後の協議会運営を支援した。

○効果的な椿林の管理や荒廃椿林等の整備に向けた取組

- ・ 豊凶の差が激しい椿実にとって、優良母樹の確保は重要であることから、優良母樹選定調査基準を策定し、協議会と連携し調査を実施した。
- ・ 効果的な資源量把握手法の検討を行うため、鹿児島大学と連携し、三島村硫黄島において、ドローンを用いた調査を行い、椿林の抽出及び林相区分図の作成を行った。

○生産拡大に向けた体制整備や技術交流の取組

- ・ 椿実生産者の技術及び知識向上を図るため、取り木・挿し木・接ぎ木及び剪定技術に係る講習会を開催した。

○認知度向上に向けた取組

- ・ 椿油に関する普及・啓発、鹿児島の椿油の認知度向上を図るため、椿関係者連携による「かごしま椿マルシェ」を開催した。

② 課題

- 優良母樹選定調査については、生産者からの聞き取りにより候補木の選定を行っているが、豊凶の差が大きいことから、複数年にわたる調査が必要
- 生産者の高齢化等により管理されなくなった樺林も増加してきていることから、荒廃樺林の把握や活用方法の検討が必要
- 樺実の安定的な供給と増産に向けた生産技術の向上が必要
- 鹿児島県内産樺の知名度が低いことから、県内のみならず、大都市圏での積極的な普及・PRが必要

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

- 「かごしま樺資源利活用促進協議会」の体制強化・運営支援
 - ・小規模・分散化した事業関係者の集約
- 効果的な樺林の管理や生産者の技術交流
 - ・優良母樹選定調査の実施
 - ・関係者及び関係市村と連携した荒廃樺林の把握や活用方法の検討
 - ・森林技術総合センターと連携した優良品種増殖のための栽培技術の確立
 - ・技術講習会や利活用促進研修の実施
- 樺油関連商品の高付加価値化・販路拡大の試行的実施
 - ・樺油の品質基準の設定に向けた検討
 - ・「かごしま樺」の認知度向上に向けたイベントの開催

② 理由

安定的な樺実生産を行っていくためには、優良母樹選定調査を継続して行っていくとともに、生産者の生産技術の向上が必要である。

また、「かごしま樺」の高付加価値化・販路拡大を行っていくためには、関係者一丸となった取組が必要である。

③ 期待する成果（目標数値等を定めた場合は、その内容を含む）

生産者等の技術交流等を通じて、効果的な樺林の管理や荒廃樺林の整備手法の構築が期待される。

また、樺油の生産技術の向上や関連商品の高付加価値化・販路拡大が進むとともに、樺実の増産と樺油関連商品の売上額の増大が期待される。